

『黒潮48号』を現役に渡すため7月18日にプールに行きました。

新しい『黒潮』を手に取り、自分の書いたもの、仲間の文章を皆が見ている中、2年生の中嶋君が、「ちゃんと作文書いたのに、載ってない。ちょー悔しい」と言っているのを訳を聞いたところ、原稿を送ったのに載ってないとの事。原因は分からないのですが、せっかく書いてくれた原稿ですので、「追補」に掲載させて頂きます。

その他『黒潮48号』に以下間違いがありましたので、ここに訂正させて頂きます。

93ページ(女子30傑200m 平泳ぎ)7位に以下記録が抜けていました。

森 春香 3:01.03(中学学年別 長水路)

99ページ(女子30傑400m メドレーリレー)4位のメンバーが誤っています。

正しくは以下の通りです。

神永, 板内, 大原, 村上 4:58.48* 2012

92ページ100m平泳ぎ20位小川紗季1:30.92、93ページ 200m平泳ぎ 23位小川紗季 3:19.62、共に12中戦の記録がもれていました。

以上訂正させて頂きます。

尚中嶋君の学年(2年生)は、現在7月時点での学年です。

黒潮会/広報 大石

桜修館水泳部の一員として

二年(七四期) 中嶋 琉唯

桜修館水泳部に入学してはや一年。僕の人生の中で一年とはちっぽけであつたという間のものかもしれない。そのちっぽけな一年だが、僕は大切なことを学んだ。それは、部活では常に先輩方や同期の支えがあるということだ。入部当時、同期との協力や先輩方に優しく丁寧に教えてもらったおかげで乗り切ることが出来た壁がいくつ也存在している。

まずは仕事だ。僕はスイミングスクールに通っていたのだが、仕事なんてものは全くやったことがなく、ものすごく不安だった。しかし仕事をする際、最初に先輩方が一緒にやって下さった。そのおかげで、いち早く仕事を覚えてこなすことが出来た。

一番最初は鍵閉めだ。今となつては簡単だが、当時は先輩に声をかけずらかった上に先輩は先に帰ってしまうので、難しかった。さらに、プールの鍵閉めということは、プールの全責任を任されたような気がして余計にプレッシャーとなつた。こんな時そばにいてくれたのが同期だった。一人で出来なければ二人でやる。と、このように僕だけじゃできないことを手伝ってくれる仲間がいた。こうして、協力して乗り切ることが出来た。

次の仕事はロボットの掃除だ。ロボットは、仕組みが色々あり、当初は覚えるのが大変だった。いつもそばにいてくれる仲間と共にでも出来ないことが増えて困り果てることが多々あつた。こんな時頼れるのが先輩だった。特に十二期の先輩はいつも近くで優しく教えて下さった。最初は一緒にやって

下さり、最後まで優しく見守って下さった。この仕事も、先輩や同期との協力で乗り切ることができた。

最後は、今でも忘れがちになつてしまつていいる仕事だ。それは、マットやクロック、声出しなどの仕事だ。これらは、今でも先輩方に注意されてしまつていいる。これらは、『慣れ』から段々雑になつてきてしまつた。だから、これらの仕事については、部活を支える大事な仕事、という意識を持つて、丁寧に取り組んでいこうと思う。

そして、スイム練だ。僕にとつて水泳とは、速さが全ての世界だった。しかし、桜修館水泳部はそうではなかった。速さが全てなんて世界ではなく、色々な人がいて、皆で協力して、アドバイスを出し合つて、共に速くなる、そんな世界だ。今までは自分一人で水泳をしてきた僕にとつて驚きでもあつた。この桜修館水泳部で練習をしていると、段々気付いてきたものがある。最初は薄らしてまだ何かは分からずモヤモヤしていた。そこで、同期や先輩との付き合いを重ねていくと、モヤモヤの正体が分かつた。それは「支え」だ。この「支え」が部活にあると他人と互いに高めあえるため、僕の成長量は二倍にも三倍にもなつた。これからもう五年間「支え」と共にさらに強くなつていく。

では最後に抱負を書かせていただきたいと思う。

今年からは、僕にも先輩ができる。先輩に色々教えてもらったことを今度は自分たちが教える番である。そこで、後輩達に上手に伝えるには、胸を張つて『僕は先輩だ!』と言えようにならなくちゃいけないと思う。タイムはもちろん速くするが、速いだけが先輩ではない。一番大切なのは、部に

対してどれだけ積極的かどうかではないのだろうか？ 僕はそうだと思う。

また、もう二年生になったのもっと部のためになる仕事を積極的に取り組んでいきたいと思う。数ヶ月前まではまだ一年生だったが、今はもう二年生である。いつまでも一年生気分ではないのではなく、部活の中でも『二年生』という自覚を持ち、積極的に仕事に取り組んでいきたいと思う。そして、今まで通り、いや、今まで以上に「支え合う部活」という部活を良くしていきたいと思う。一人で出来なくても二人で、二人で出来なくても三人なら出来る。このように、一人で考え込むのではなく、そばにいてくれる仲間と共に考えあつていきたいと思う。このように協力することが出来るのなら、僕等十三期は、水泳部は、部としても人間としてももともと成り長できる気がする。

これから、今年の目標を書かせていただきたいと思う。

50 Fr 26 秒台を出す。今年は、とにかくこの目標に向かって努力していきたいと思う。それは、今 50 Fr はとても伸びている。そこで、この伸びが終わる前に少しでも伸ばしておきたいと思っているからである。

これからどうぞよろしくお願いします。